

規則5.07(a)(2)【原注】の改正に関する運用・解釈について

2026年度から下記の規則改正に伴い、走者のいるときに『セットポジション』とみなされる姿勢においても、『windアップポジション』として投球することができることとなった。これを『ハイブリッド（セットポジションの姿勢）によるwindアップポジション』（通称『ハイブリッドポジション』）としている。また、アマチュア野球内規が改正され、違反動作としていた『windアップポジションの投手』における、右投げ投手の三塁へのけん制および左投げ投手の一塁へのけん制については、けん制球の行為自体では投球動作の変更とはみなさず、正規に自由な足を直接その塁に踏み出して送球していれば、規則違反（ポーク）とはしないことにした。（規則5.07(a)(1)【原注2】②）

審判員ならびにプレーヤー、チーム関係者等に混乱のないよう、その運用方法や投球姿勢の解釈について周知するので参考としていただきたい。

規則改正内容（破線部追加）

5.07(a)(2)【原注】最終段落

塁に走者がいるときに、投手が投手板に軸足を平行に触れ、なおかつ自由な足を投手板の前方に置いた場合には、この投手はセットポジションで投球するものとみなされる。ただし、打者が打席に入る前に、投手がwindアップポジションで投球をする旨を審判員に伝えた場合には、前述のような投球姿勢であったとしても、windアップポジションとして投球することができる。

投手は、打者が打撃中であっても、(i)攻撃側チームにプレーヤーの交代があったとき、または(ii)走者の位置が変わったときは、次の投球を行う前であれば、審判員にwindアップポジションで投球する旨を伝えることができる。

【注6】

windアップポジションとして投球する旨を審判員に伝えた後であっても、攻撃側チームのプレーヤーが交代したり、走者の位置が変われば、セットポジションに戻すことができる。

【注7】

アマチュア野球では、セットポジションに戻すときも、審判員にセットポジションで投球する旨を伝えなければならない。

ハイブリッドポジション（セットポジションの姿勢からwindアップポジションで投球する場合）による動作の整理

・セットポジションで投球するものとみなされる条件

- ① 走者がいる
- ② 軸足が投手板と平行に触れている
- ③ 自由な足が投手板の前方に置かれている

これら3つの条件が満たされた状態にある場合、『セットポジション』で投球するものとみなされる

しかし、この姿勢であっても投手の申告により『windアップポジション』で投球することが可能となる。

※2026野球規則（13）項 「投球姿勢」2. 走者がいるとき ⑥・⑦・⑧ でのセットポジションでの足の位置において、審判員に申告することにより、windアップポジションで投球することができる。

◎申告の手順について

- ・当該の投手は、打者が打席に入る前までに球審に口頭で伝える。

※インプレイ中となるので、投球に関連する動作（投球動作）と紛らわしい（この際、球審は“タイム”をかける必要はない）

『打席に入る』とは、打者が完全にバッタースボックス内に入った状態をさす

【例外】

以下の状況になった場合は、打者が打撃中であっても申告することが可能

- ・打者が途中交代したとき
- ・塁上の走者が途中交代したとき
- ・塁上の走者が盗塁（盗塁死）等によって、走者の位置が変わったとき

この際は、その状況となった次の投球を行う前であれば、申告することができる。

※実際はタイム中となっていることもあるが、申告は受付ること。

・球審は他の塁審およびプレーヤー、両チームベンチに対して投球姿勢が変わる旨のサインを示す。このサインの明示をもって、投球姿勢の変更が確定する。

※球審のサインが明示されたとき、塁審はアンサーのサインを出すこと。（試合前の打合せでしっかり確認すること。）

＜球審によるサインの明示＞

- ・セットポジションからハイブリッド（セットポジションの姿勢）によるウィンドアップポジションへの申告があった場合のサイン
★球審は『両手を身体の前面で合わせて頭頂部へ振りかぶる動作』をジェスチャーで示す。
- ・ハイブリッド（セットポジションの姿勢）によるウィンドアップポジションからセットポジションに戻す申告があった場合のサイン
★球審は『両手を身体の前面で合わせてそのまま保持する姿勢』をジェスチャーで示す。

・打者の打撃が完了すれば、『ハイブリッド（セットポジションの姿勢）によるウィンドアップポジション』での申告による効力は解消される。投手は、次打者に対しても同様にハイブリッドによる投球を行う場合は、再び次打者が打席に入る前に球審に口頭で伝える必要がある。（投手は、打者の打撃が完了すれば、セットポジションに戻す旨を球審に伝える必要はなく、打者が代われれば、申告していたものはリセットさせることを念頭に置いておかなければならない）

【例】

（１）打者が打席に入る前に申告するケース

- ① １アウト走者２塁のとき、次の投球で打者の２塁ゴロで２アウト３塁となった。

ここで投手が次の投球前にハイブリッドポジションで投球したいと球審に伝えた。

⇒球審は『頭頂部へ振りかぶるジェスチャー』をして、周知しなければならない。

② 2アウト走者3塁のとき、投手はすでにハイブリッドポジションによる投球を行っていたが、打者の3塁打により、再び2アウト走者3塁となった。

投手は、ここでも次打者が打席に入る前に、球審に対してハイブリッドポジションで投球する旨を伝えた。

⇒球審は『頭頂部へ振りかぶるジェスチャー』をして、継続の周知をしなければならない。

(※打者が代わるごとにリセットされて、次打者へのハイブリッドポジションでの投球に関する効力は継続されず、新たな申告がなければセットポジションで投球するものとみなされる)

(2) 打者が打撃中に走者の位置が変わり、次の投球前に申告するケース

① 2アウト走者1・3塁、投手がセットポジションで投球していたが、1塁走者が盗塁して、走者が2・3塁となった。

ここで投手が次の投球前にハイブリッドポジションで投球したいと球審に伝えた。

⇒球審は『頭頂部へ振りかぶるジェスチャー』をして、周知しなければならない。

② 1アウト走者2・3塁、投手がすでにハイブリッドポジションでの投球を行っていたが、3塁走者が牽制球によりアウトとなり、2アウト走者2塁となった。

これにより投手は次の投球前に通常のセットポジションに戻したいと球審に伝えた。

⇒球審は『両手を身体の前面で保持するジェスチャー』をして、周知しなければならない。

(※投手はその打者の打撃が完了しないかぎり、ハイブリッドポジションで投球を続けることになるため、セットポジションでの投球に戻す際には球審に伝える必要がある)

○ハイブリッドポジションの姿勢から留意すべき点

① 投球動作の開始

- ・通常のセットポジションからの投球ではないため、サイン交換後から両手を合わせる動作は『投球動作の開始』とみなされ、中断や変更はできない。
(サイン交換前に両手を身体の前方の一定の位置に持ってくる動作は身体の他の部分が同時に動きを開始した動作を伴わなければ『投球動作の開始』とはみなさないの、両手を合わせた状態からハイブリッドポジションをとったことになる)
- ・自由な足を後方に引いたり、両手を振りかぶれば『投球動作の開始』となる。

② 走者のいる塁へのけん制

- ・最初に軸足を投手板から後方に外すことはできるし、その後に塁へ送球することもできる。
- ・自由な足を直接その塁に踏み出して送球することはできる。

【例1】

2死走者3塁、投手がハイブリッドポジションから投球することを伝えた後、軸足が投手板に平行に触れて、自由な足が投手板の前方に置かれ、両手が離れている姿勢から、両手を合わせながら自由な足を1歩後方に引き、さらに1歩前方に踏み出して投球した。

⇒ 正規の投球動作であり、ボークにはならない。

【例2】

2死走者3塁、投手がハイブリッドポジションから投球することを伝えた後、例1と同様の姿勢から、通常のセットポジションの癖で捕手からのサイン交換後に両手を身体の前で保持した。

⇒ 投球動作の中断となり、ボークとなる。

【例3】

2死走者3塁、投手がハイブリッドポジションから投球することを伝えた後、軸足が投手板に平行に触れて、自由な足が投手板の前方に置かれ、両手が離れている姿勢から、そのまま自由な足を3塁の方に踏み出して、投げ手もそのまま3塁へ送球した。

⇒ この動作は投球動作とはみなされず、ボークにはならない。

ただし、手、腕または足の動きが投球動作の開始であると判断されれば、投球動作の変更として、ボークとなる。

【例4】

投手がハイブリッドポジションから投球することを伝えた後、打者に対して2球投球したが、制球が定まらないため、セットポジションで投球した。

⇒ 打者1人に対して有効なため、セットポジションで投球すればボークとなる。(※もし、申告があったとしても、打者か走者の位置が変わっていないためその申告は認められません。)

【例5】

一死走者2,3塁。投手がハイブリッドポジションから投球すること伝えた後、投手が三塁へ牽制し、3塁走者がアウトとなり、二死走者2塁となった。投手は申告せず、同一打者に対してセットポジションから投球した。

⇒ 走者の位置が変わった場合でも、同一打者に対しては申告が必要なため、ストレッチを行い静止した場合ボークとなる。

○通常のセットポジションの姿勢から留意すべき点

・ストレッチ（前面で両手を合わせるとき、腕を頭上または身体の前方に伸ばす行為）動作の際、自由な足も連動して地面から上がったたり、引いたりすることは問題ないが、両手を合わせて前方で保持した後、自由な足を後方に引くことはできない。

【例6】

2死走者3塁、投手が通常のセットポジションの姿勢から、ストレッチを開始して両手を身体の前面で保持した後、自由な足を1歩後方に引いてから、さらに1歩前方に踏み出して投球した。

⇒ セットポジションからの投球動作では認められず、バークとなる。

【例7】

2死走者3塁、投手が通常のセットポジションの姿勢から、自由な足を1歩後方に引きながら両手を合わせるストレッチを行ない、身体の前面で保持した後に投球した。

⇒ ストレッチの動作としては問題なく、バークとはならない。

投手からの申告は少ないと思いますが、サプライズでの場面が考えられますので、各審判員がビックリしないよう方法や注意点などよく確認し理解しておきましょう。

また、申告を受けた球審のジェスチャーにより選手やベンチに明示するので、そのジェスチャーも見逃すことがないようにしてください。